

アンケート調査結果

平成21年3月7日

三重県

和歌山県

目 次

I アンケート調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査項目	1
3. 実施概要	1
4. アンケート調査結果の概要	2
(1) 熊野川下流地域の道路に関する不満	
(2) 熊野川を渡る新たな道路の必要性	
(3) 新たに整備すべき道路に求められる機能	
(4) 新たに整備すべき道路のルート	
(5) 熊野川下流地域の道路計画についての主な意見	
(6) その他	
5. まとめ	6
II アンケート調査結果	
1. アンケート調査結果（住民）	7
(1) 回答者属性	
(2) 調査結果	
2. アンケート調査結果（各種団体及び企業）	12
(1) 企業概要	
(2) 調査結果	
3. 熊野川下流地域の道路計画についての主な意見（住民・各団体・企業）	15

I アンケート調査の概要

1. 目的

熊野川下流地域の道路の現状や課題、新たな道路に対する考えなどについて、地域住民の皆様からご意見をお聞きし、その結果を踏まえ、ルート概要等を取りまとめる。

2. 調査項目

【世帯用】

項目1 アンケート記入者の情報

- 性別 ○年齢（年代別）○職業
- 現住所（郵便番号または大字の記入）

項目2 熊野川を渡る橋の利用状況

- 世帯全員への質問
- 熊野川を渡る目的、交通手段、橋の利用頻度

項目3 現在の道路についての不満点（課題）

- 渋滞 ○交通事故 ○災害時の迂回路
- 高速道路 ○その他感じていること

項目4 熊野川下流地域の道路整備の必要性和配慮事項

- 公共交通の利用促進 ○現道拡幅 ○新たな道路整備
- 費用便益分析による判断 ○景観への配慮 ○沿道利用や周辺道路との連絡
- その他自由意見

項目5 新たな道路に期待する機能

- 渋滞解消や交通事故対策 ○買物・通勤等日常の利便性
- 災害時の緊急輸送機能 ○地域の産業支援
- 歩行者・自転車の利用 ○その他自由意見

項目6 新たなルートの整備位置

- 概ねのルートへの意見 ○別ルートの提案

項目7 その他、地域の道路計画について

- 自由意見

【各種団体・企業用】

項目1 企業・団体の概要

- 業種 ○従業員数
- 現住所（郵便番号または大字の記入）

項目2 熊野川を渡る橋の利用状況

- 地域内の移動状況（利用車種と頻度）
- 他の地域への移動状況（利用車種と頻度）

3. 実施概要

実施期間	平成20年12月26日～平成21年1月19日 ※1				
配布方法	住民：広報への折り込みによる配布 企業・各種団体：郵送				
配布先	住民：新宮市・紀宝町全世帯 企業：新宮市商工会議所加入企業、紀宝町商工会加入企業 各種団体：地域内のJA事業所、漁業協同組合、森林組合、商工会議所・商工会、新宮保健医療圏の医療機関、郵便局				
周知方法	新宮市・紀宝町の広報誌、 三重県・和歌山県のホームページ				
回収数・回収率	配布先	配布部数	回収部数	回収率	
	住民	新宮市	16,564	1,012	6.1%
		紀宝町	5,668	588	10.4%
		不明	-	29	-
		合計	22,232	1,629	7.3%
	企業	新宮市	403	170	42.2%
		紀宝町	20	9	45.0%
		合計	423	179	42.3%
	各種団体	新宮市	24	9	37.5%
		紀宝町	8	6	75.0%
		合計	32	15	46.9%
合計		22,687	1,823	8.0%	

※1：返信用封筒の有効期限が平成21年2月末のため、2月下旬着のものまでを集計しています

●アンケート回収票数の信頼度及び必要な標本数

標本数がどの程度必要かは、以下の式で表される。

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\epsilon}{t}\right)^2 \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

$$= \frac{22,687}{\left(\frac{0.03}{1.96}\right)^2 \times \frac{22,686}{0.5 \times (1-0.5)} + 1} = 1,020$$

n：標本数（回収票数）
N：母集団（調査対象者の総数）
ε：標準誤差（許容できる誤差の範囲）
t：信頼度係数=1.96（通常、信頼度95%とする）
P：母比率=50%（必要標本数は50%で最大となるため）

信頼度95%とは、その標本が100回に5回がその標本誤差の範囲内におさまらないという意味を示す。

標準誤差は自由に設定できるが、総務省統計局による「統計実務基礎知識」には3%が通常との記述がある。

信頼度95%、標準誤差3%の場合、本調査に必要な標本数は1,020票であり、今回の回答数はそれを上回っているため、必要な信頼度は確保できていると考えられる。

※参考文献「統計実務基礎知識（平成18年度版）」（財）全国統計協会連合会発行

4. アンケート調査結果の概要

(1) 熊野川下流地域の道路に関する不満

災害時の代替道路が無いことへの不満が特に高く、次いで、高速道路が近くにないことと渋滞への不満が高くなっているなど、多くの人々が熊野川下流地域の道路に不満を持っている。(図 I-1、I-2)

【住民】熊野川下流地域の道路について不満に思うこと

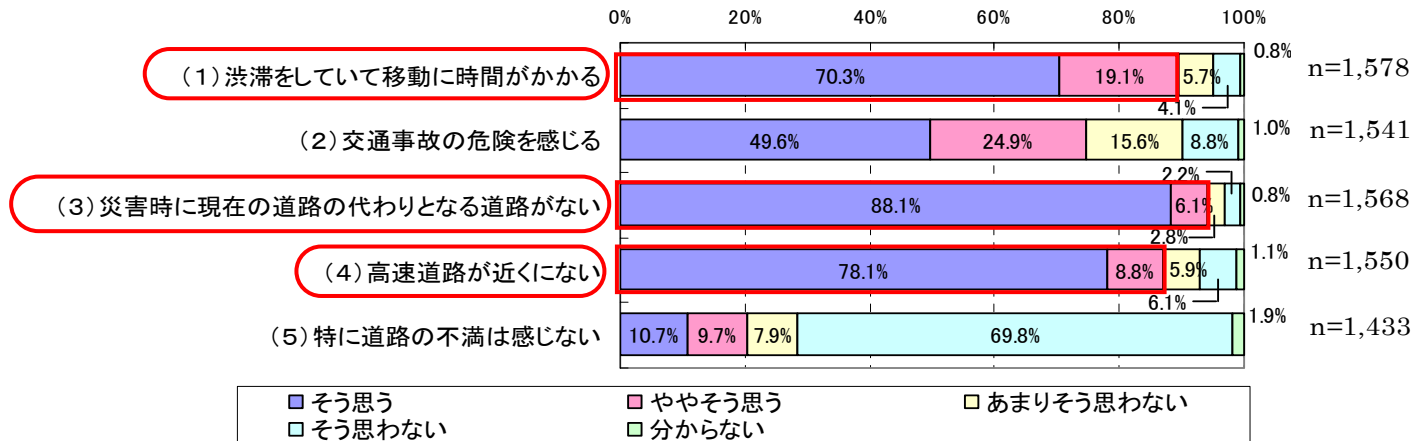


図 I-1

【企業・団体】熊野川下流地域の道路について不満に思うこと

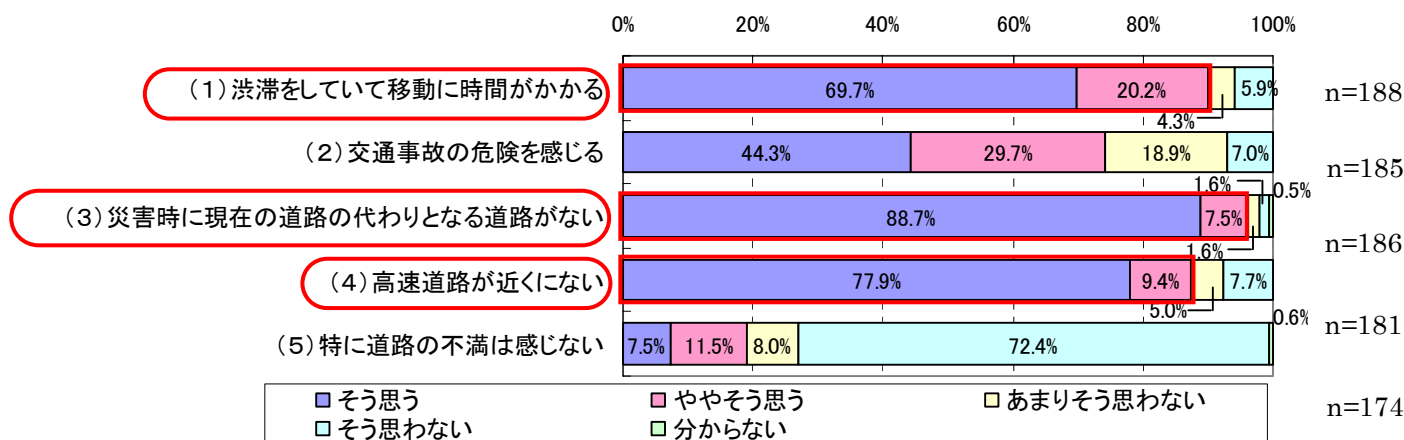


図 I-2

《その他主な意見【住民+企業・団体】》

日頃感じている道路への不満 (回答数: 643)

- ・ 国道 42 号から熊野大橋にかけての渋滞が問題である。特に祝日や連休の時期は移動が非常に不便である (254 件)
- ・ 地域全体に道路整備が遅れている、不足している (92 件)
- ・ 地域内道路の幅員が狭く、歩道も少ないので危険である (60 件)
- ・ 自転車や徒歩での移動時に危険を最も感じる (55 件)
- ・ 橋が老朽化しているため震災時に崩れることが不安、道路の確保ができないので災害時が一番心配である (54 件)

(2) 熊野川を渡る新たな道路の必要性

熊野川流地域の道路に関する不満を解決するためには、熊野川を渡る新たな道路が必要とする意見が最も多く、住民は 87.4%、企業は 84.6%の人が必要だとしている。また、道路整備に際して住民は 86.0%、企業は 92.3%の人が、沿道利用や周辺道路との連絡に配慮すべきとしている。(図 I-3、I-4)

【住民】熊野川下流地域の道路整備の必要性や配慮すべき事項

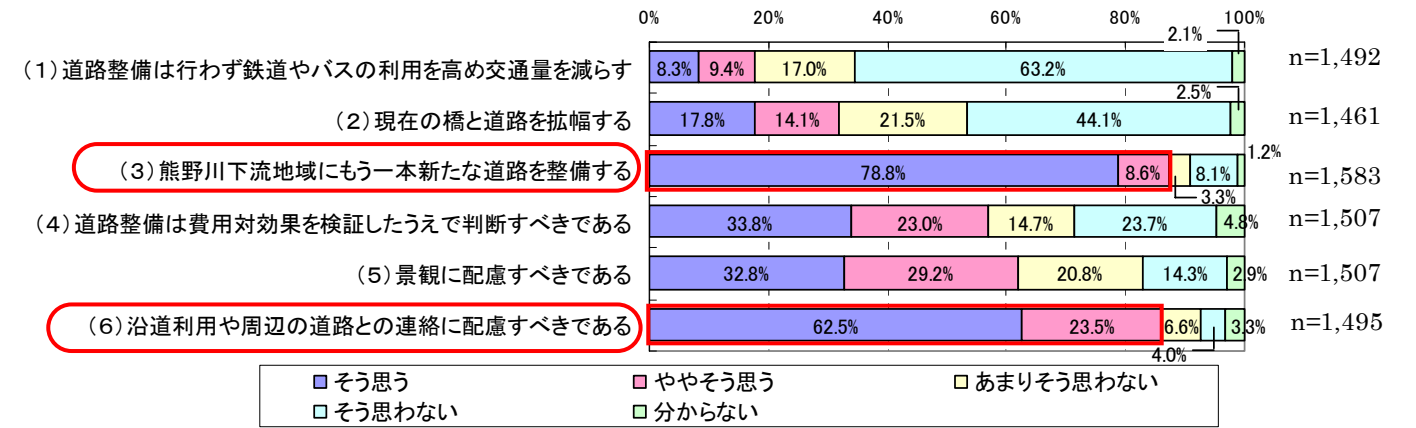


図 I-3

【企業・団体】熊野川下流地域の道路整備の必要性や配慮すべき事項

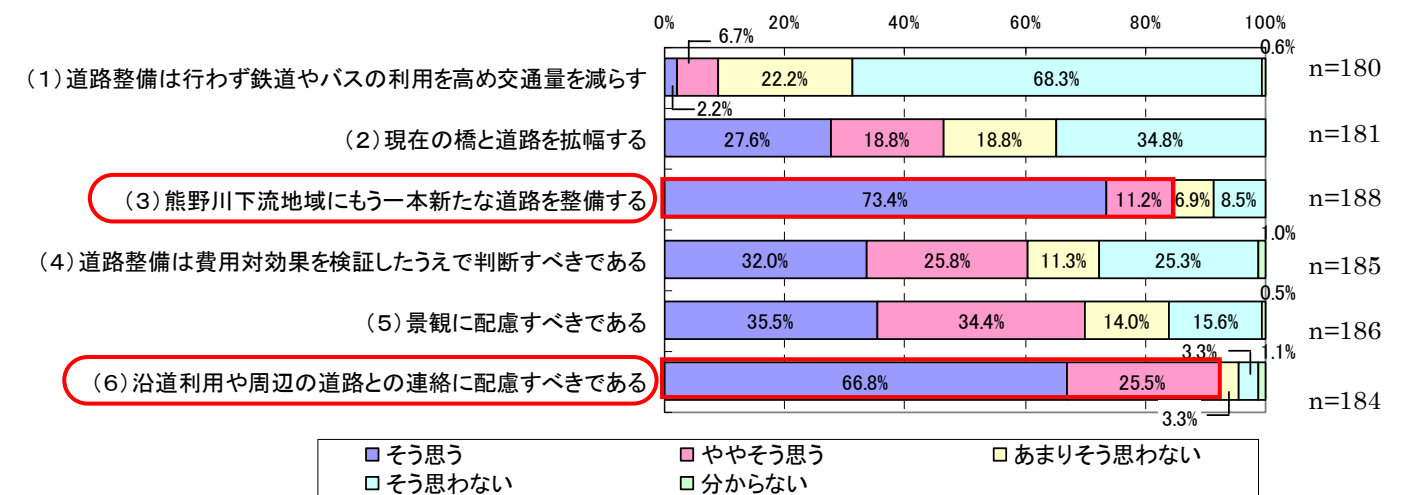


図 I-4

《その他主な意見【住民+企業・団体】》

熊野川下流地域の道路整備の必要性や配慮事項 (回答数: 392)

- ・ 1 日でも早く熊野川に新しい橋を整備してほしい (109 件)
- ・ 生活道路とあわせて高速道路や迂回路が必要だ (43 件)
- ・ 新しい橋の必要性は少ない。必要でない橋は作るべきでない。(37 件)
- ・ 緊急時を考えると道路は必要だが、災害対策が大変な下流になぜ整備するのか (23 件)
- ・ 信号が多すぎるのも渋滞の原因ではないか。改善してほしい。(12 件)

(3) 新たに整備すべき道路に求められる機能

熊野川下流地域への道路整備に対して緊急時の輸送や日常の渋滞解消への期待が特に多くなっている。(図 I-5、I-6)

【住民】熊野川下流地域の道路整備に期待する事項

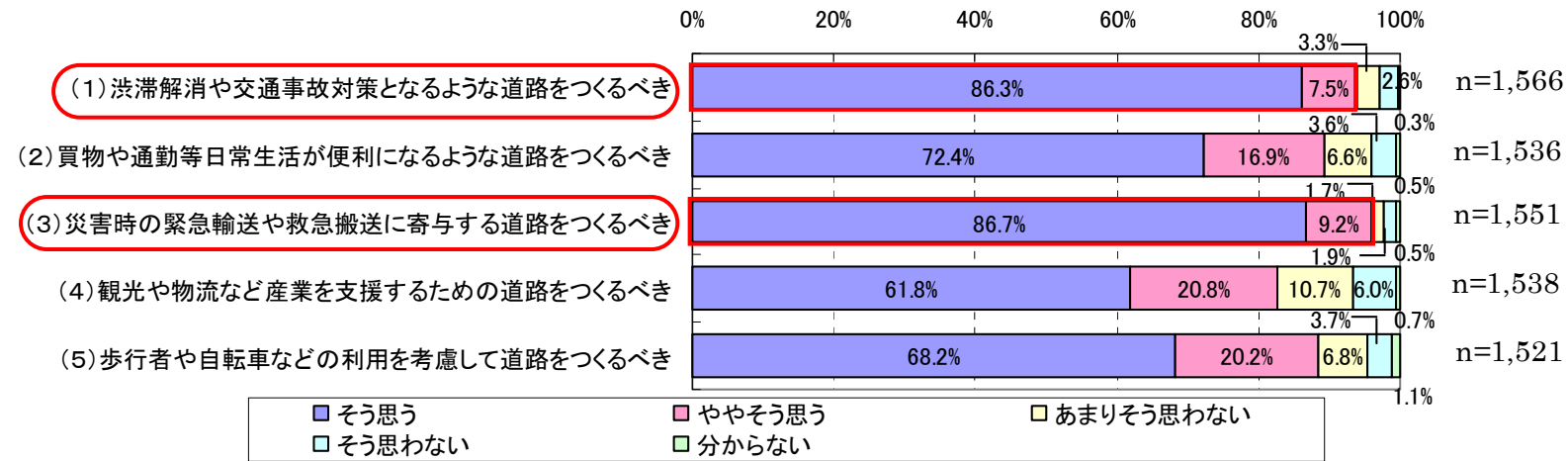


図 I-5

【企業】熊野川下流地域の道路整備に期待する事項

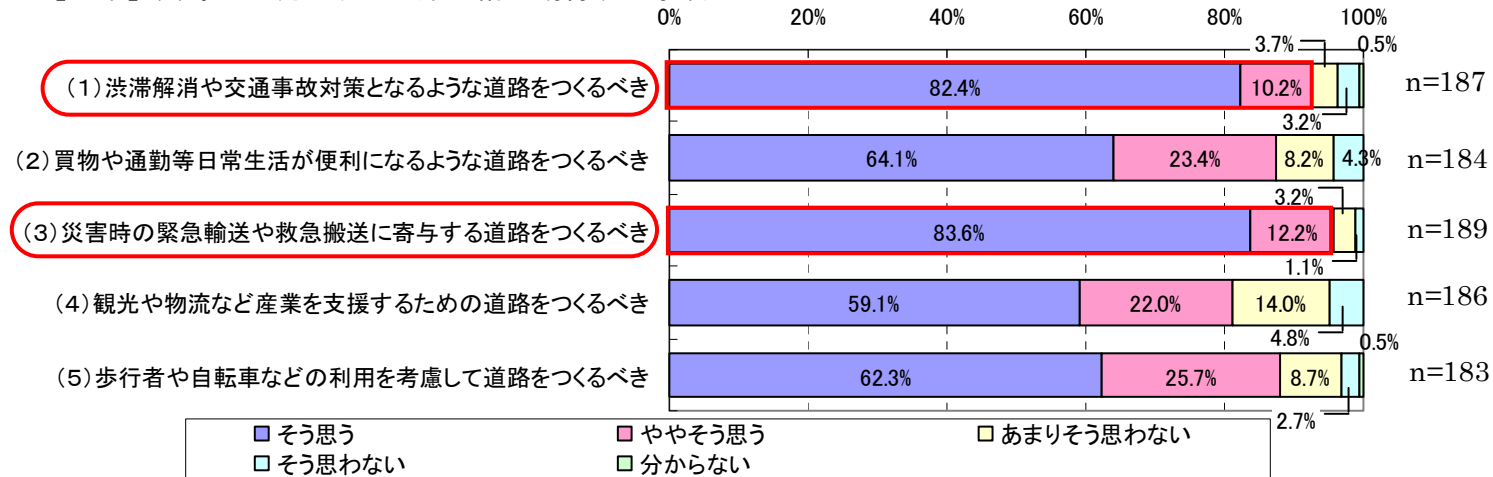


図 I-6

《その他主な意見【住民+企業・団体】》

熊野川下流地域の道路整備に期待すること (回答数: 319)

- ・ 観光や産業など、地域の活性化のためになる道路整備に期待する (52 件)
- ・ 道路整備が遅れているので、とにかく早期に整備してほしい (50 件)
- ・ 福祉や健康、環境のために、今後は自転車道や歩道の整備が必要 (39 件)
- ・ 新たな整備や拡幅、交差点改良等による渋滞解消を願う (36 件)

(4) 新たに整備すべき道路のルート

新たな道路のルート候補案への「そう思う」回答は、住民が 68.5%、企業・団体が 58.4%であった。「ややそう思う」を含めると、住民、企業・団体とも 80%以上となった。(図 I-9、I-10)

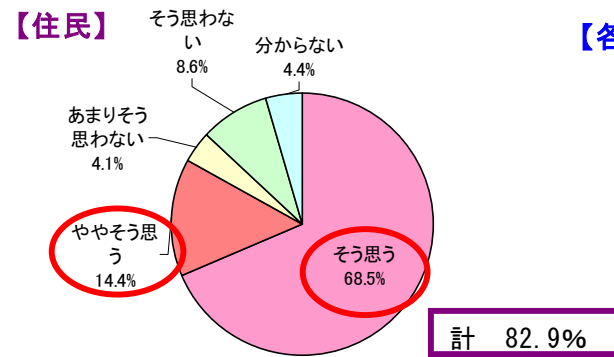


図 I-7

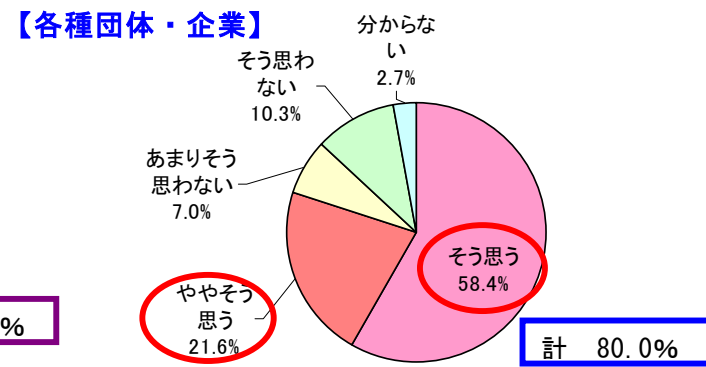
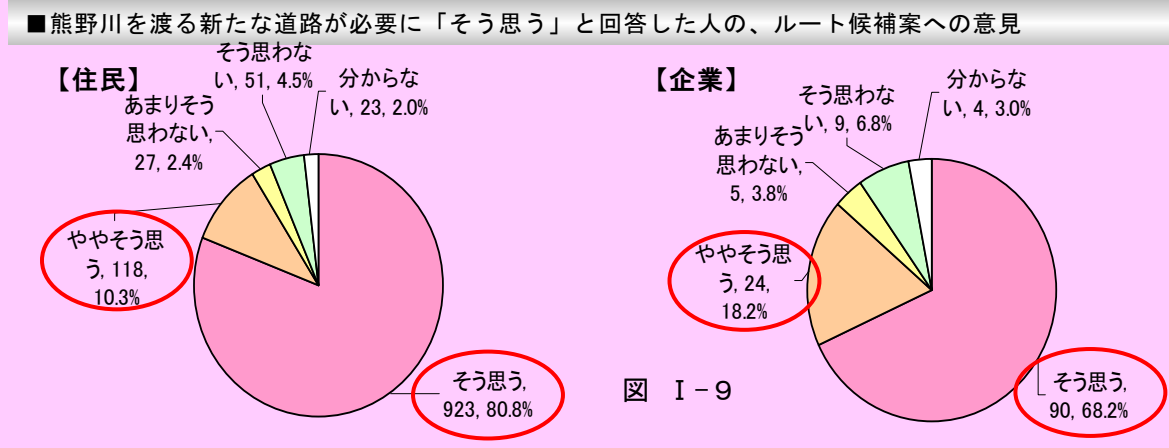


図 I-8

「新たな道路が必要である」と思っている人のうち、ルート候補案に賛成の回答は住民が 91.1%、企業・団体が 86.4%であった。(図 I-9)



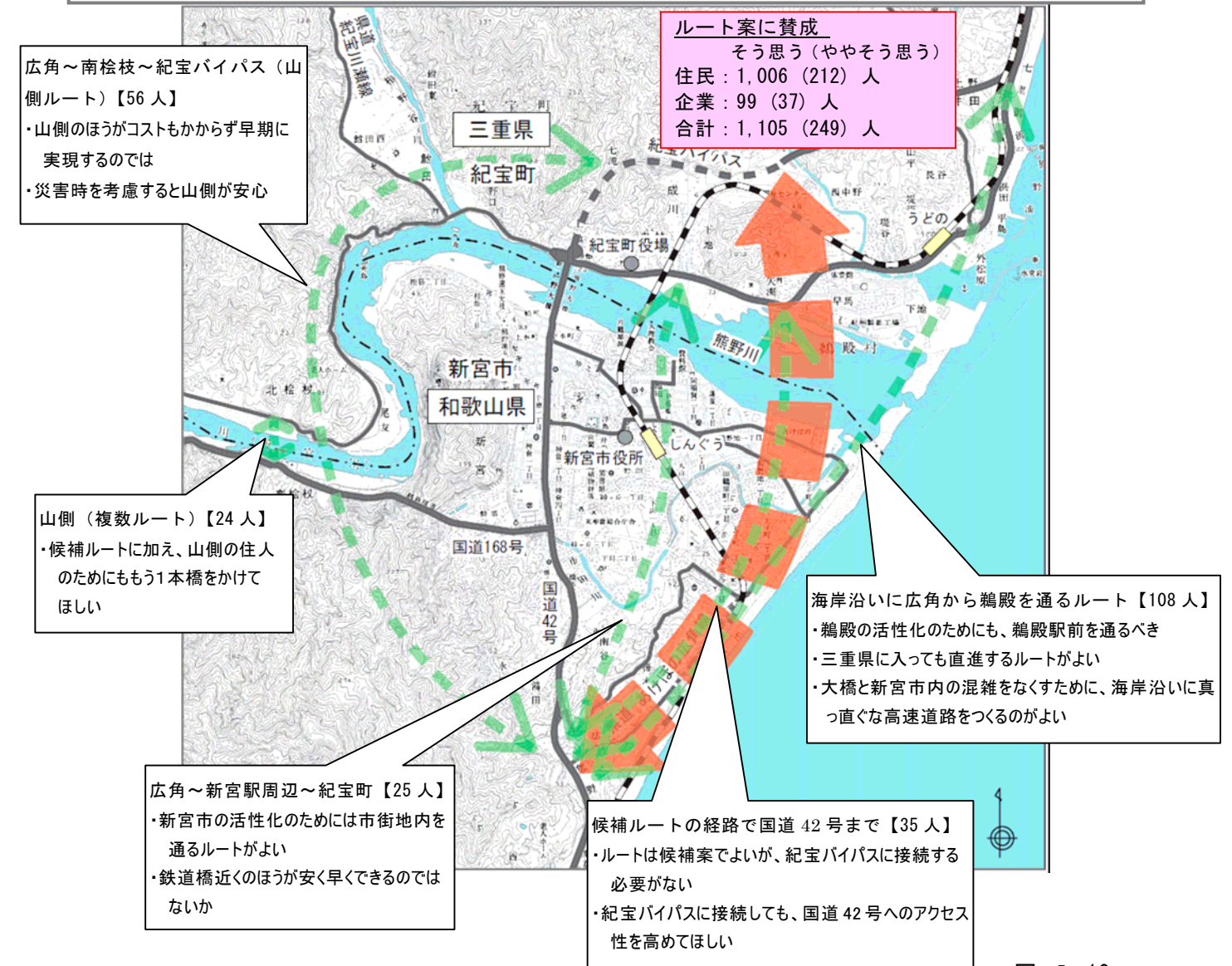
《その他主な意見【住民+企業・団体】》

新たな道路のルートに関する意見 (回答数: 408)

- ・ 利便性を考えると河口部に整備してほしいが、災害時が心配 (48 件)
 - ・ 町がこれ以上寂れないよう、観光や商業の活性化につながるルート (26 件)
 - ・ 橋は必要だが、1本ではなく複数あってもよい (25 件)
 - ・ できるだけ費用がかからず、早期整備が実現するルートがよい (18 件)
- (別ルートの主な意見については、図 I-10 を参照)

【別ルートの主な意見】

- ・ 新たな道路のルート候補に「そう思う」と回答していない人の意見として、大別すると4つの別案が提案されている。(下図参照)
- ・ 特に、海岸沿いにまっすぐ紀宝町へつながり、鵜殿駅周辺を通るルートへの支持が多く、あわせて鵜殿駅周辺の道路整備への意見や、鵜殿地区の活性化への配慮等の意見が多い。
- ・ 新たな道路以外に、地域間連絡のための橋は複数必要という意見も見られた。



(5) 熊野川下流地域の道路計画についての主な意見（住民・各団体・企業）

【道路計画に関する自由意見】

・その他自由意見として、572件（31.4%）の回答を得られた。

道路ネットワーク・道路整備に関する意見（185件）

- ・新たな道路と併せて既存道路との連絡や地域内道路の整備も必要（95件）
- ・一級河川に橋が一箇所しかない場所は他にないので、ルートは複数あってよい（10件）
- ・新ルートができたなら紀宝バイパスは無駄になるのではないかと（10件）
- ・紀宝バイパス、紀伊半島一週道路の早期整備を望む（8件）
- ・現在の道路網で充分である（整備の必要はない）（60件）

整備時期に関する意見（175件）

- ・新宮市・紀宝町を結ぶ道路が不足しており、早急に道路整備が必要（168件）
- ・早急に河口の大橋、もしくは高速道路の整備を望む（13件）
- ・紀宝バイパスが完成してから検討しても遅くないのでは（6件）

渋滞解消に関する意見（68件）

- ・紀宝バイパス整備と新たな橋が整備されなければ渋滞は解消しない（23件）
- ・道路整備とあわせて、市街地内道路の整備や交差点改良など、渋滞対策も必要である（17件）

地域の活性化に関する意見（51件）

- ・地域活性化に重点をおいた道路整備を希望する（18件）
- ・安心して歩ける歩道・自転車道がほしい（14件）
- ・高規格道路が整備されたら、ますます新宮市内がさびれるのではないかと（10件）
- ・高速道路がないと、テナントを募集しても店が来ない（6件）

災害対策に関する意見（43件）

- ・東南海地震、南海地震対策として災害時緊急輸送や救急搬送に資する道路が必要（12件）
- ・活断層の上に高速道路を整備してよいのか（10件）
- ・災害時を考えると、海側より山側のルートがよいのではないかと（7件）
- ・あわせて既存の2橋も耐震補強してほしい（4件）
- ・やがて来るであろう大震災への対策は検討しているのか（3件）

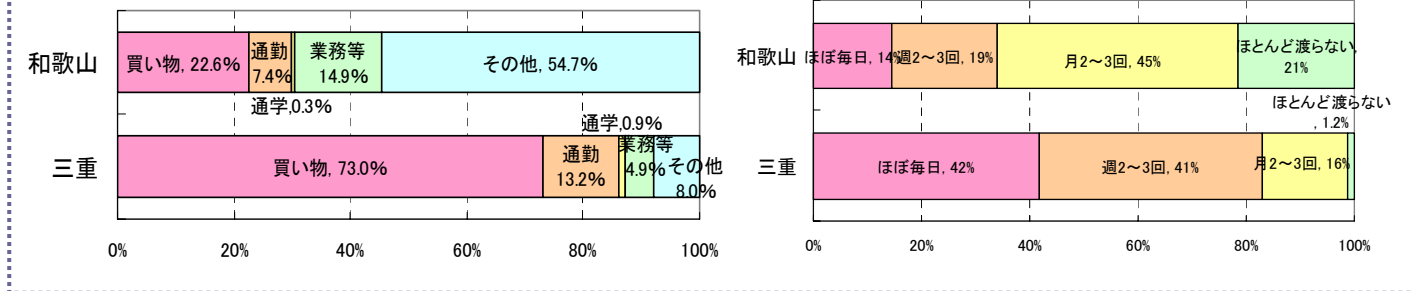
地域の環境・文化に関する意見（11件）

- ・自然環境やウミガメなど貴重な生物にどのような影響があるか十分配慮すべき（5件）
- ・世界遺産に登録された土地でむやみな道路整備はやめるべき（3件）
- ・熊野古道をはじめ、観光資源に対して分かりやすい整備が必要（2件）

(6) その他

新宮市と紀宝町では、利用目的及び利用頻度に大きく異なる特性が見られるが、両市町とも新たな道路を求める人の割合が高く、新宮市では80.7%、紀宝町では91.1%の人が新規道路の必要性を感じている。（図 I-11、I-12）

【参考】県別の利用目的・利用頻度



【和歌山】

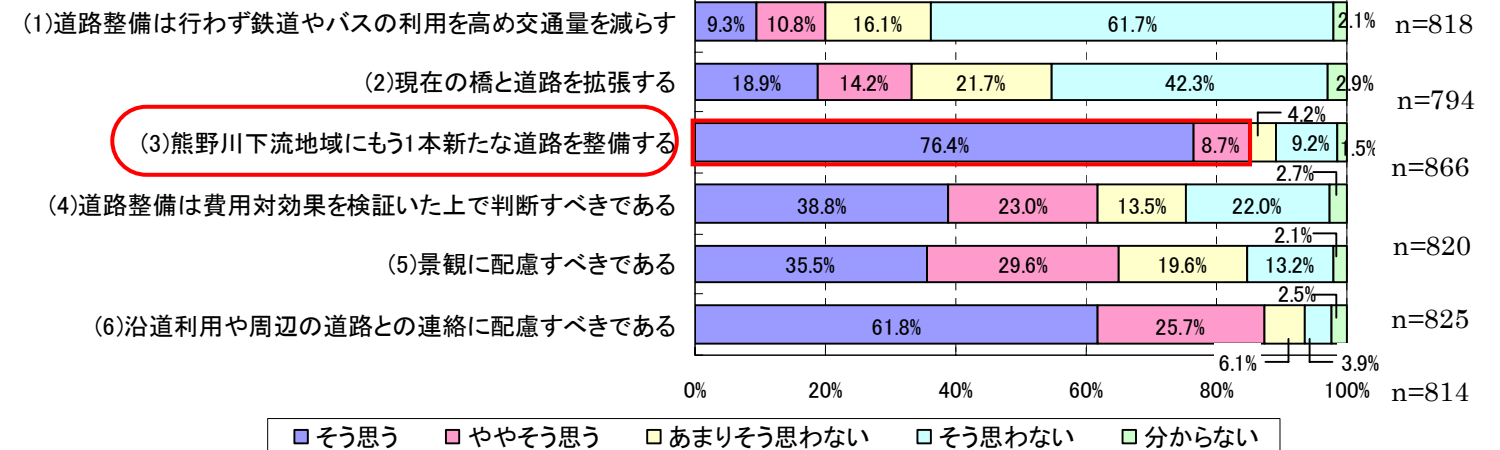


図 I-11

【三重】

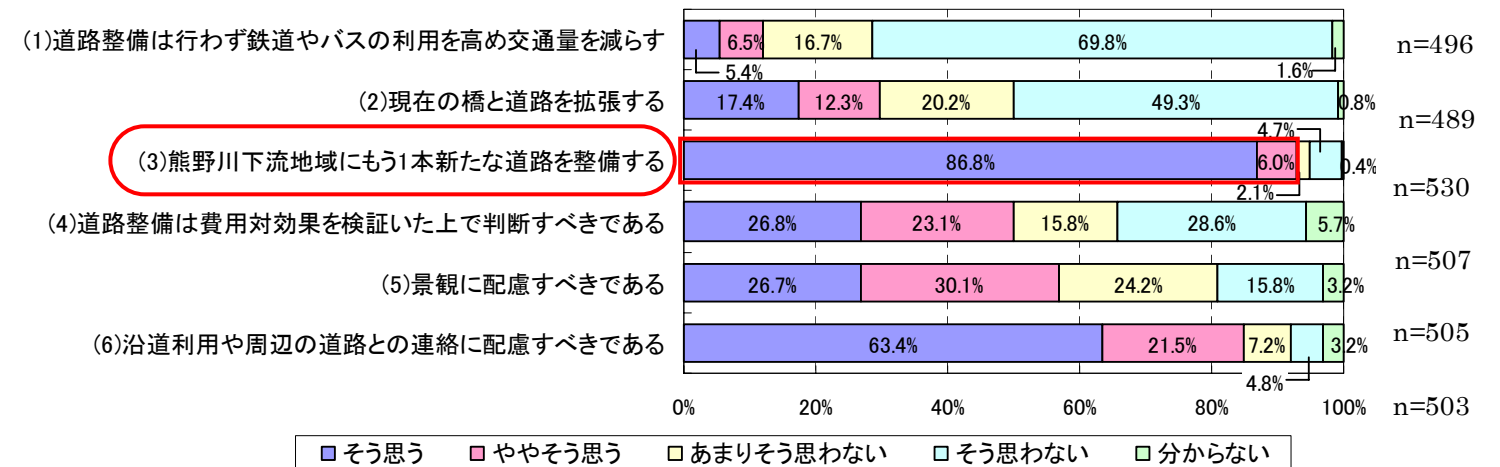


図 I-12

5. まとめ

「熊野川下流地域の道路計画に関するアンケート調査」の結果の取りまとめは、次のとおりです。

【現在の道路への不満】

多くの人が、災害時に代替道路がないこと、高速道路が近くになくことや渋滞をしていることに不満を感じています。

【道路整備の必要性】

多くの人が、現在の道路に関する不満を解消するためには、もう一本新たな道路を整備することや、沿道利用や周辺の道路との連絡に配慮することを望んでいます。

【新たな道路に期待する機能】

多くの人が、緊急時の輸送や日常の渋滞解消の機能を持った道路が必要と考えています。

【新たな道路の整備位置】

新たな道路のルート案については、多くの人が、アンケート調査（右図（図 I-13））で示した「概ねのルート候補の範囲」を妥当であると考えています。

【その他、主な自由意見】

「道路計画に関する自由意見」では、572件（回答者の31.4%）のご意見をいただきました。

（主な意見）

- 新宮市、紀宝町を結ぶ道路が不足しており早急に道路整備が必要。（168件）
- 新たな道路と併せて既存道路との連絡や地域内道路の整備も必要。（95件）



図 I-13

Ⅱ アンケート調査結果

1. アンケート調査結果（住民）

(1) 回答者属性

【回答者の性別】

- ・回答者の67.0%は男性、33.0%は女性となっている。(図 II-1)
- ・「熊野川を渡る橋の利用状況」(項目2)については、世帯の方にもお聞きしているため、橋の利用現況についてはそれぞれ50%の回答が得られている。(図 II-1)

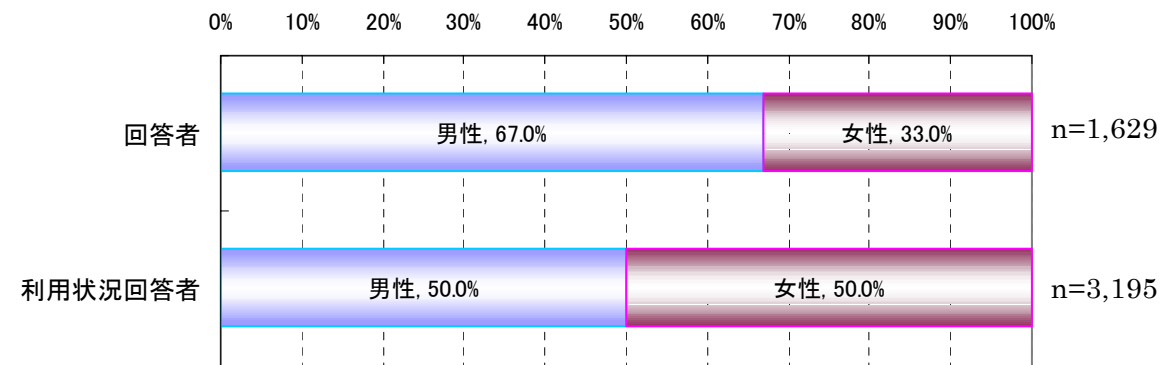


図 II-1

※無回答除く

【回答者の年齢・職業】

- ・回答者の年齢を年代別にみると、30代・40代がそれぞれ約13%、50代が21.6%、60代が最も多く23.6%、70代以上が20.1%となっている。(図 II-2)
- ・高齢者の回答数の割合が多くなっているが、紀宝町と新宮市の年齢別人口比率と比較すると、ほぼ近い割合での回答であるといえる。(H17 国勢調査結果より)
- ・回答者の職業は、最も多いのがお勤めの方で40.2%、続いて主婦・学生等で37.9%、自営業14.7%となっている。(図 II-3)

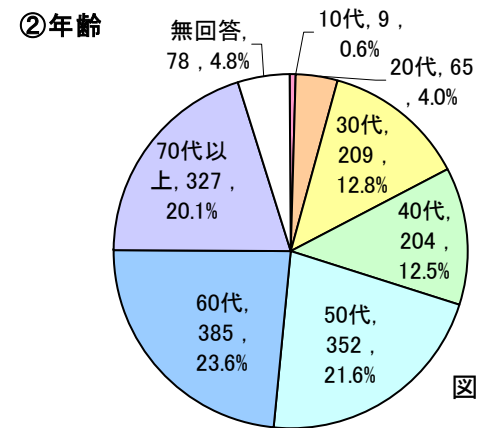


図 II-2

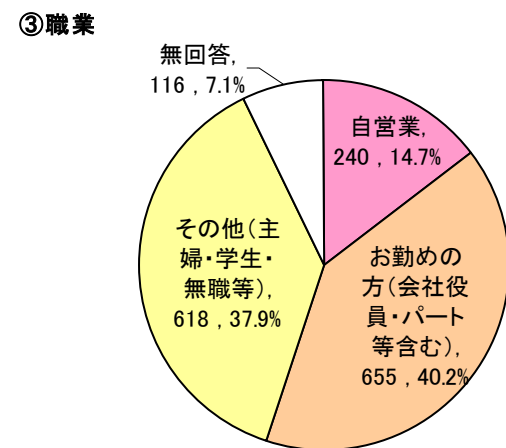


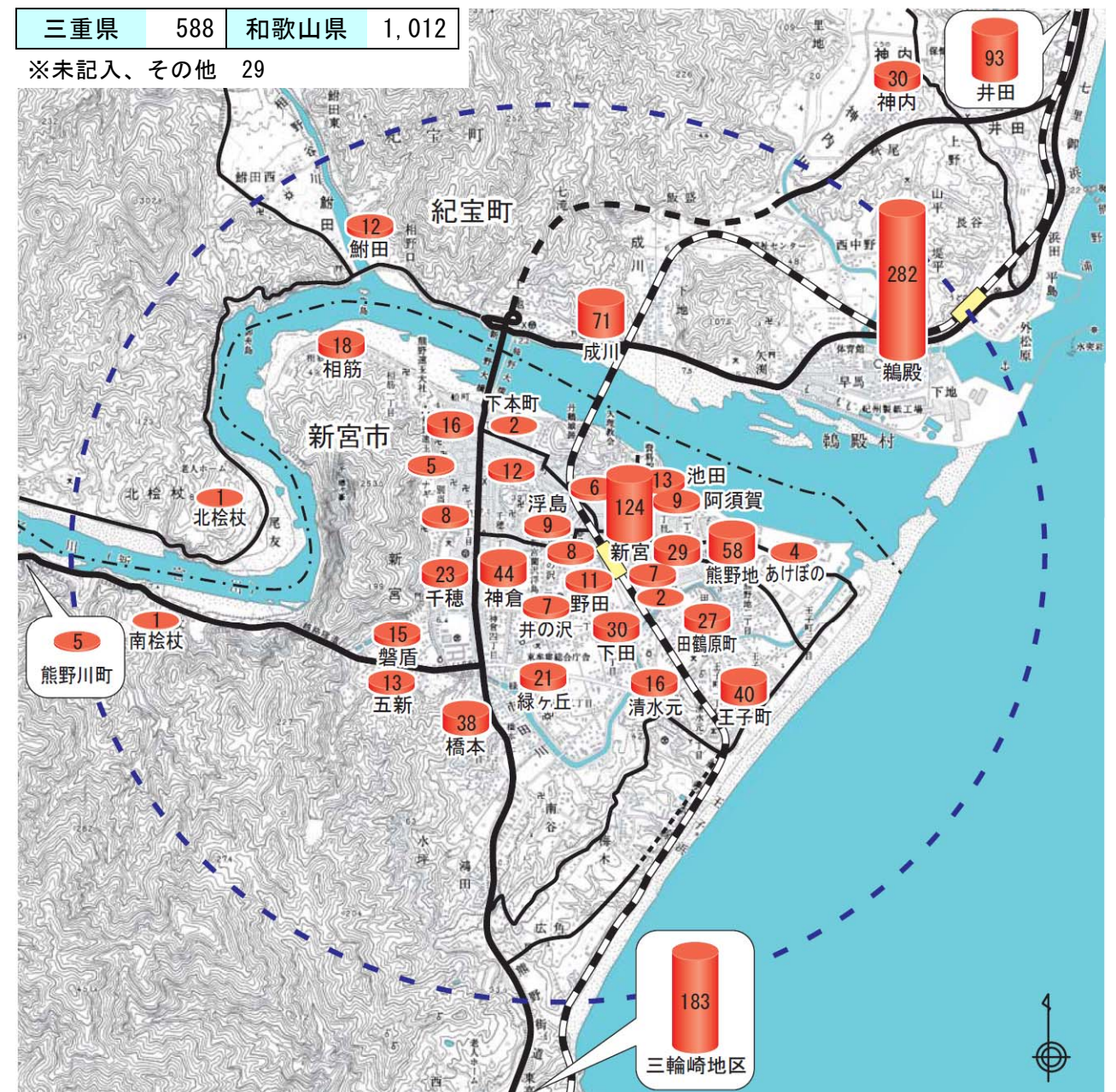
図 II-3

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
紀宝町	9.4%	7.7%	10.4%	11.3%	16.2%	14.3%	22.0%
新宮市	9.8%	7.8%	11.1%	11.8%	15.3%	14.0%	21.0%

(平成17年国勢調査結果より)

【回答者の分布】(図 II-4)

- ・地域別の回答者数は、和歌山県1,012、三重県588となっている。
- ・紀宝町の回答者の過半数は鶴殿地区となっている。つづいて井田地区からの回答が多くなっている。
- ・新宮市では新宮駅周辺の市街地からの回答が過半数を占めている他、市南部の三輪崎地区からの回答も多くなっている。



※上図地区以外からの回答：307

図 II-4

(2) 調査結果

項目2 熊野川を渡る橋の利用状況についてお聞きします。

熊野川を渡る場合の主な利用目的、交通手段、利用頻度について、お聞きします。16歳以上のご家族全員について、あてはまるものを○で囲ってください。

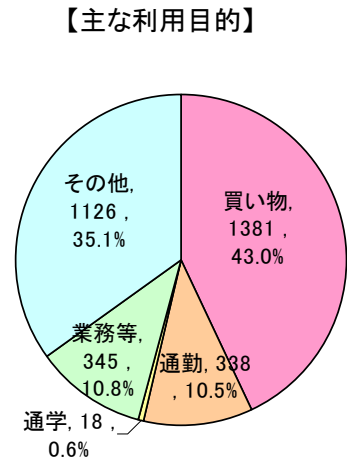


図 II-5

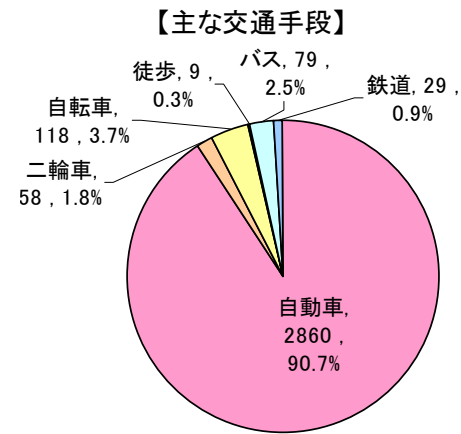


図 II-6

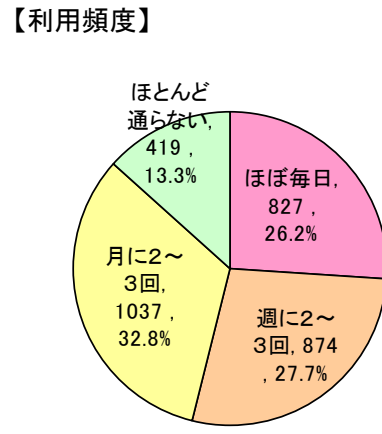


図 II-7

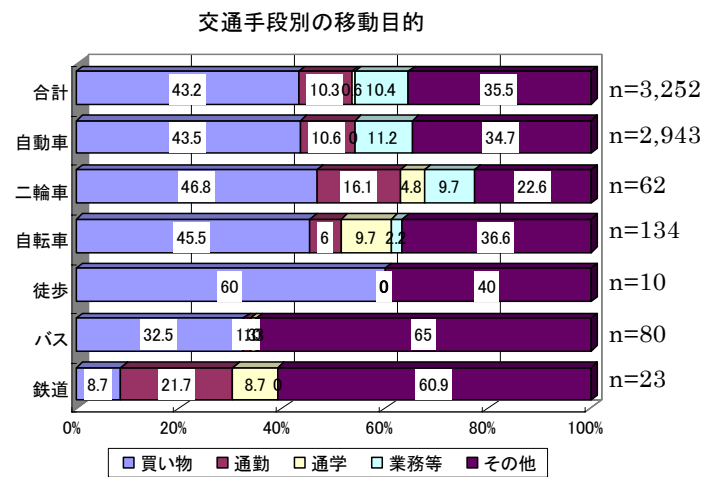


図 II-8

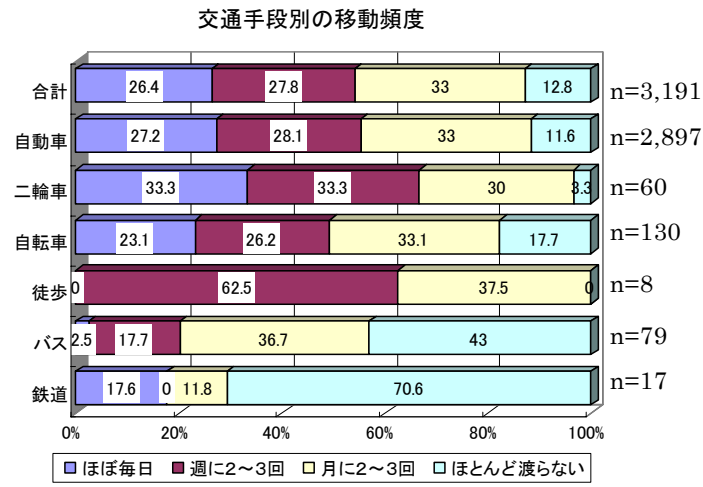


図 II-9

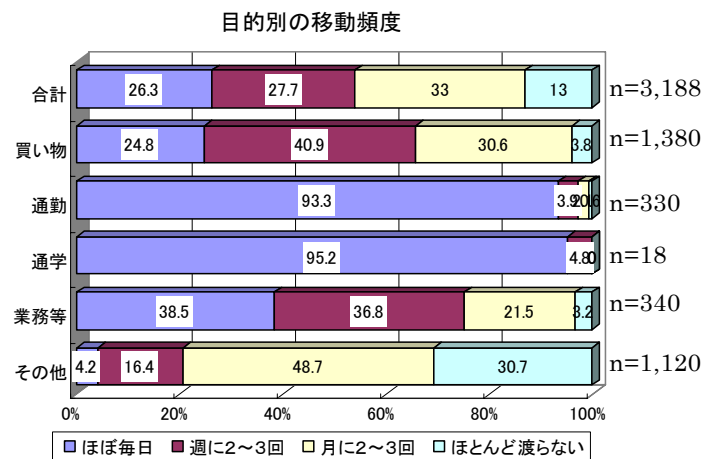


図 II-10

■ 県別の利用状況 ■

【利用目的】

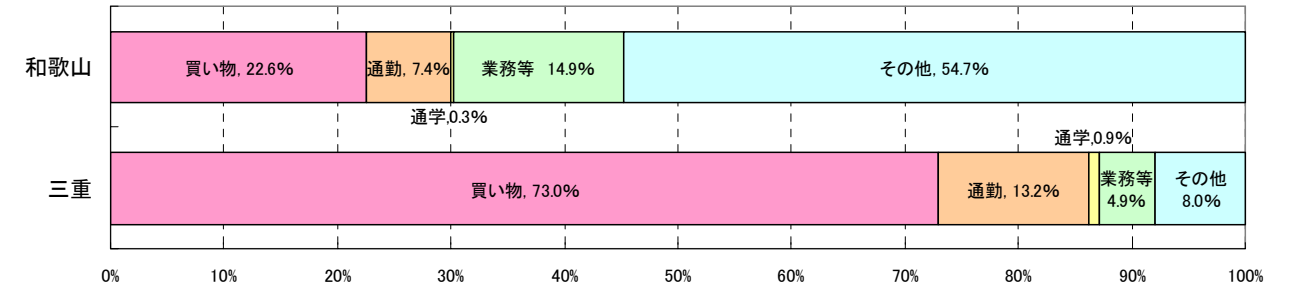


図 II-11

【交通手段】

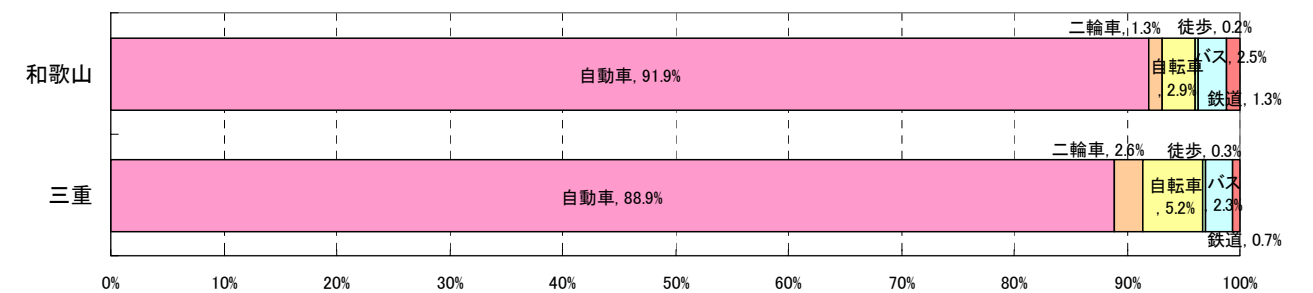


図 II-12

【利用頻度】

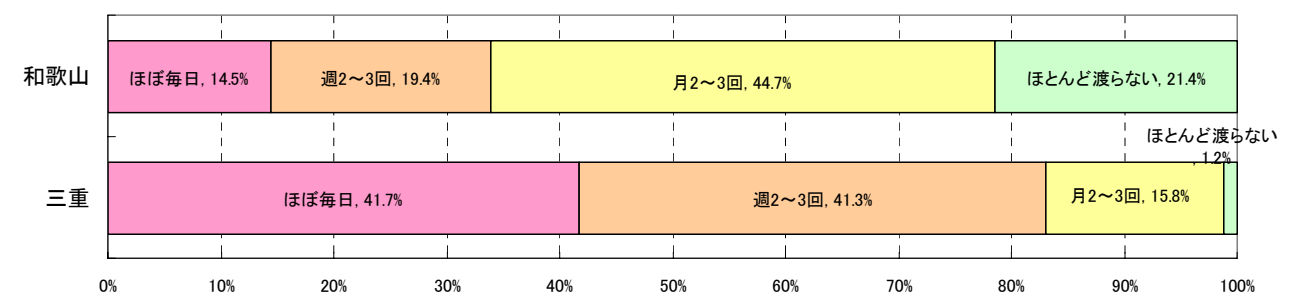


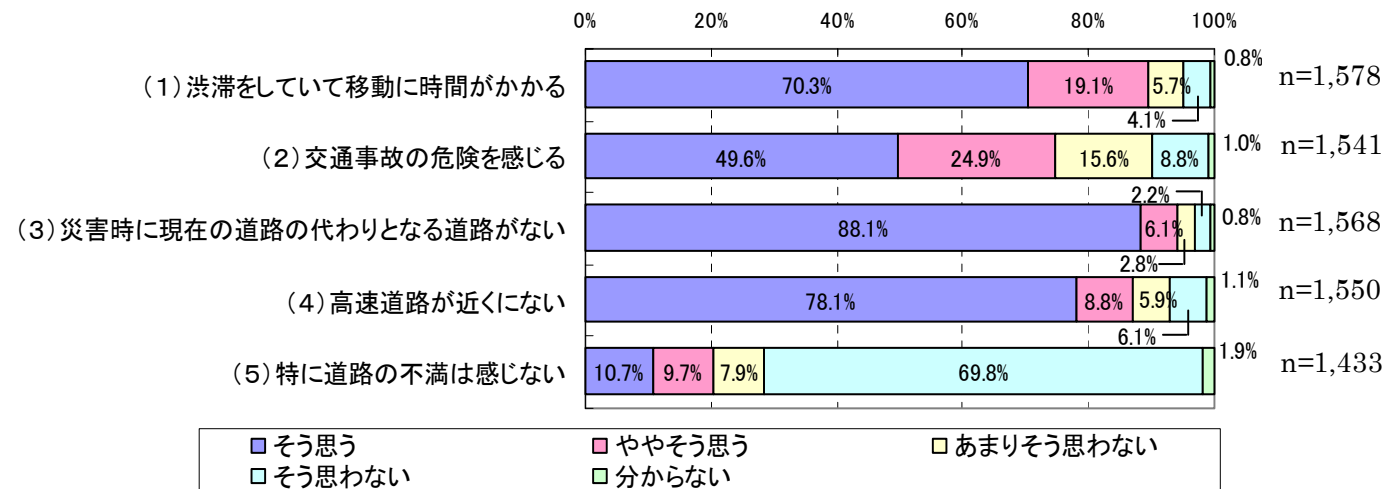
図 II-13

【橋の利用状況】

- ・熊野大橋、新熊野大橋の主な利用目的で最も多いのが日常の買い物で、43.0%となっている。(図 II-5)
- ・交通手段としては90%以上が自動車を利用しており、自転車や徒歩での利用をあわせて約4%となっている。(図 II-6)
- ・回答された方の過半数が、週2~3回以上という高い頻度で橋を利用している。(図 II-7)
- ・買い物で橋を利用する人は、週に2~3回の利用が最も多く40.2%である。毎日利用する人は27.5%、となっている。(図 II-10)
- ・県別の特性としては、紀宝町側住民のほうが「買い物」「通勤」で利用する割合が多く(約2.9倍)、週2~3回以上の利用頻度も高くなっている(約2.4倍)。(図 II-11~II-13)

項目3 熊野川下流地域の道路に関し不満に思うことについてお聞きします。

現在の熊野川下流地域の道路について、どのように思われますか？以下の(1)～(5)それぞれについて、お答えに最も近いものを1つずつ選び○で囲ってください。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない
(1) 渋滞をしていて移動に時間がかかる	1,109	302	90	65	12
(2) 交通事故の危険を感じる	765	384	241	135	16
(3) 災害時に現在の道路の代わりとなる道路がない	1,382	96	44	34	12
(4) 高速道路が近くにない	1,210	137	92	94	17
(5) 特に道路の不満は感じない	154	139	113	1,000	27

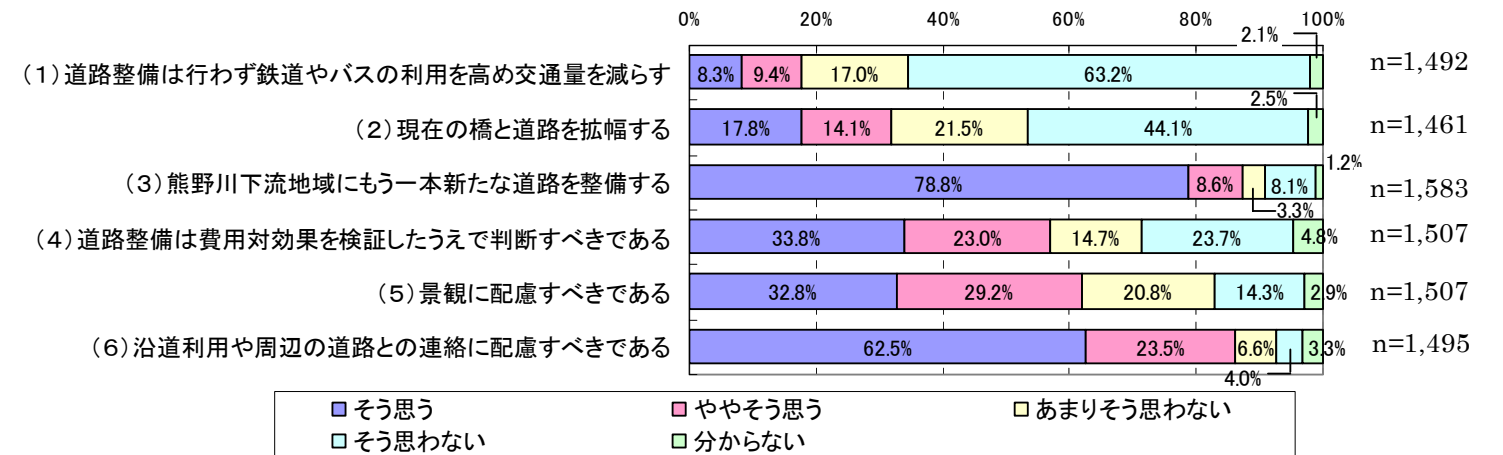
図 II-14

【道路に関する不満】(図 II-14)

- ・地域の道路に関する不満のうち「そう思う」回答が最も多かったのは「災害時の代替道路がない」で、88.1%、続いて「高速道路が近くにない」で78.1%となっている。
- ・日常の問題としての交通渋滞についての不満は70.3%であり、「ややそう思う」を合わせると「高速道路がない」ことの不満を上回っている。
- ・「特に不満を感じない」に「そう思わない」「あまりそう思わない」人は77.7%となっている。

項目4 熊野川下流地域の道路整備の必要性や配慮すべき事項についてお聞きします。

熊野川下流地域の道路に関し不満に思うことについて、どのような方法で解決すればよいと思いますか。また、道路整備に配慮すべきことはなんですか。以下の(1)～(6)それぞれについて、お答えに最も近いものを1つずつ選び○で囲ってください。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない
(1) 道路整備は行わず、鉄道やバスなどの利用を高め、交通量を減らす	124	140	253	943	32
(2) 現在の橋と道路を拡幅する	260	206	314	645	36
(3) 熊野川下流地域にもう一本新たな道路を整備する	1,247	136	53	128	19
(4) 道路整備の必要性は、費用対効果を検証したうえで判断すべきである	510	347	221	357	72
(5) 景観に配慮すべきである	494	440	314	215	44
(6) 沿道利用や周辺の道路との連絡に配慮すべきである	934	352	99	60	50

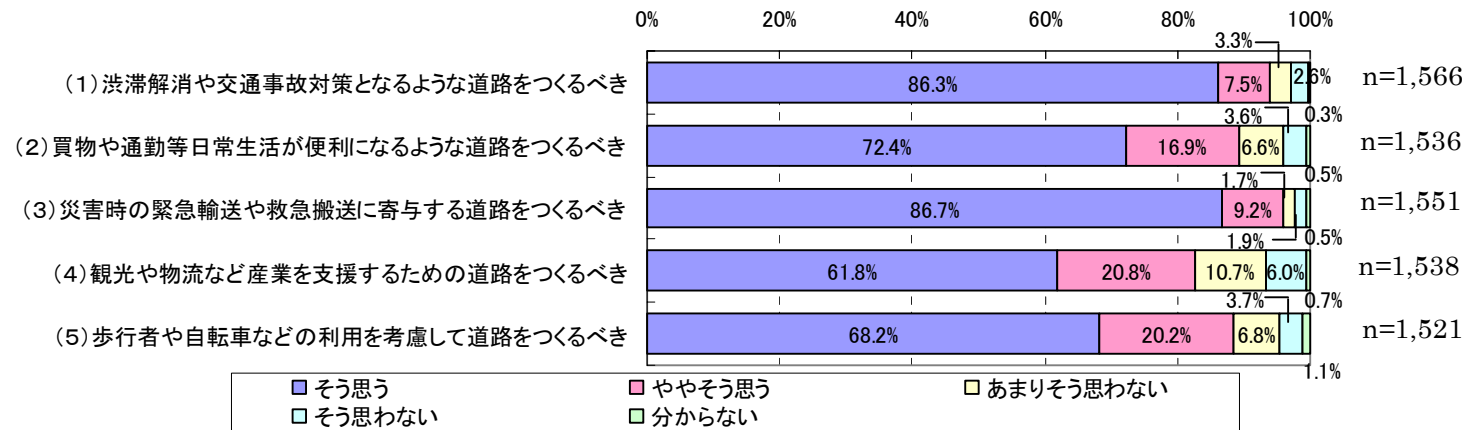
図 II-15

【道路整備の必要性と配慮事項】(図 II-15)

- ・熊野川下流地域への新しい道路整備については、「そう思う」「ややそう思う」を合わせて87.4%の人が必要性を感じている。
- ・逆に、公共交通の利用や既存道路の拡幅等に対応するという意見は少なくなっている。
- ・配慮事項としては、「沿道利用や周辺の道路との連絡」を重視している回答が最も多く86.0%であり、費用対効果の検証や景観への配慮も過半数の人が必要だと回答している。

項目5 熊野川下流地域の道路整備に期待することについてお聞きします。

熊野川下流地域の道路整備が必要とする場合についてお聞きします。熊野川下流地域の道路整備にどのような期待をしますか。以下の(1)～(5)のそれぞれについて、お答えに最も近いものを1つずつ選び○で囲ってください。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない
(1) 渋滞解消や交通事故対策となるような道路をつくるべき	1,351	118	52	41	4
(2) 買物や通勤等、日常生活が便利になるような道路をつくるべき	1,112	260	101	56	7
(3) 災害時の緊急輸送や救急搬送に寄与する道路をつくるべき	1,344	143	27	30	7
(4) 観光や物流など産業を支援するための高速で快適に走れる道路をつくるべき	951	320	164	92	11
(5) 歩行者や自転車などの利用を考慮して道路をつくるべき	1,037	308	104	56	16

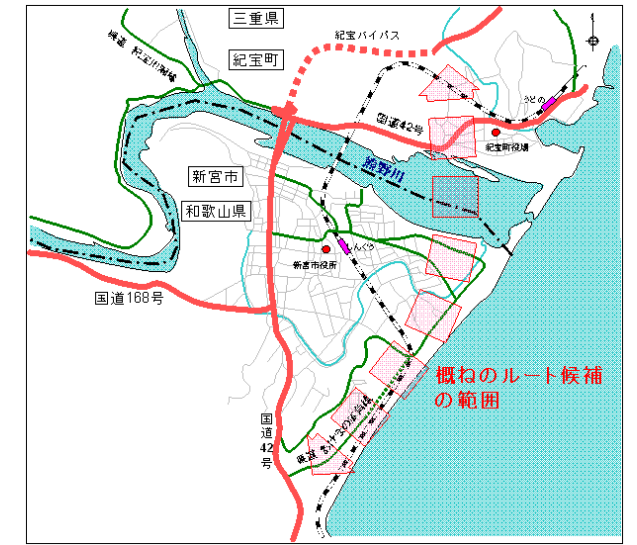
図 II-16

【道路整備に期待すること】(図 II-16)

- 道路整備の効果への期待で回答が多かったのは「渋滞解消や交通事故対策」と「災害時の緊急輸送・救急搬送への寄与」で、「そう思う」「ややそう思う」を合わせるといずれも90%以上となっている。
- 続いて、「買物や通勤など日常生活の利便性向上」「歩行者や自転車の利用」への期待がそれぞれ89.3%、88.4%で、地域住民の日常生活へ資する道路への期待が大きくなっている。
- また、「観光や物流など産業を支援するための道路」については、「そう思う」「ややそう思う」を合わせて82.6%となっており、地域の活性化への期待も高くなっている。

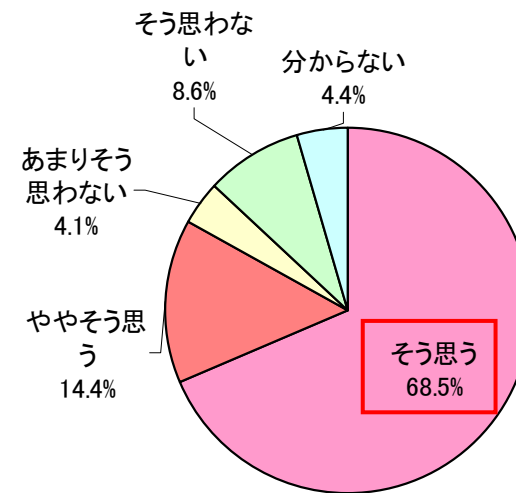
項目6 熊野川下流地域の道路整備位置についてお聞きします。

(1) もし熊野川を渡る新たな道路をつくるとすれば、右図に示すルート候補の1つとして考えられますが、概ね妥当だと思いますか。お答えに最も近いものを1つ選び○で囲ってください。



(2) 熊野川を渡る新たな道路のルートについて、上記以外にご意見がありましたら、ご自由にお書き下さい。

【ルート候補の位置】



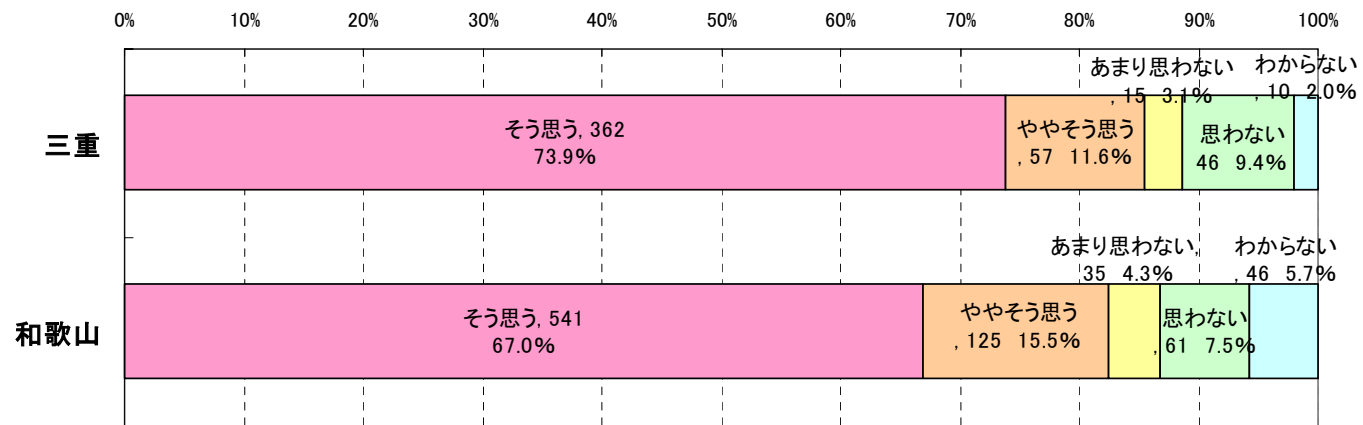
そう思う	1,006
ややそう思う	212
あまりそう思わない	60
そう思わない	126
分からない	64
合計	1,468

図 II-17

【道路の整備位置】(図 II-17)

- 新たな道路のルート候補(上図)については、「そう思う」68.5%、「ややそう思う」14.4%、あわせて82.9%の人の賛同を得られている。
- 「あまりそう思わない」「そう思わない」人は12.7%となっている。
- 県別にみると、新宮市住民よりも紀宝町住民のほうが、ルート候補に対する賛同の回答が多くなっている。(次ページ)

【ルート候補の位置・県別の回答】



	そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	思わない	わから ない	無回答	合計
三重	362	57	15	46	10	51	541
和歌山	541	125	35	61	46	87	895

※住所不明の票は除く

図 II-18

■ルート候補に関する主な意見 (370件)

- 災害時への不安 (47件)
 - ・河口に近い橋は、高波や震災時に備え対策が必要なのは (30件)
 - ・川の下を通るトンネルなら立ち退きもなく災害時も安心 (6件)
- 生活道路としてのルート (10件)
 - ・住民のための橋と高速道路としてあるべきルートは違う (歩行者・自転車のための道路を整備してほしい) (8件)
- 早期実現できるルートの要望 (18件)
 - ・とにかく早く実現するルートがよい (11件)
- その他
 - ・地域活性化につながる、まちが寂れないルートを望む (21件)
 - ・川を渡るルートは複数あってよい (22件)
- 候補ルート以外の提案 (右側参照) (248件)

【ルートに関する意見】

- ・新たな道路のルート候補に「そう思う」と回答していない人の意見として、大別すると4つの別案が提案されている。(下図参照)
- ・特に、海岸沿いにまっすぐ紀宝町へつながら、鵜殿駅周辺を通るルートへの支持が多く、あわせて鵜殿駅周辺の道路整備への意見や、鵜殿地区の活性化への配慮等の意見が多い。
- ・新たな道路以外に、地域間連絡のための橋は複数必要という意見も見られた。



図 II-19

2. アンケート調査結果（各種団体及び企業）

（1）企業概要

【各種団体】分類

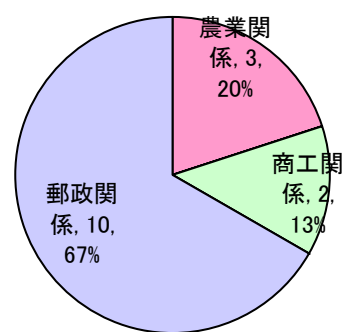


図 II-20

【企業】業種

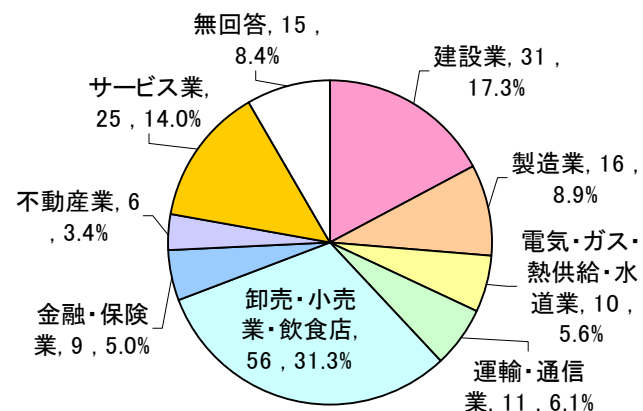


図 II-21

【各種団体】職員数

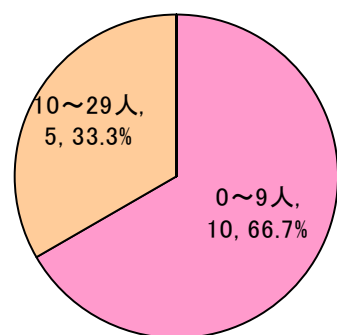


図 II-22

【企業】従業者数

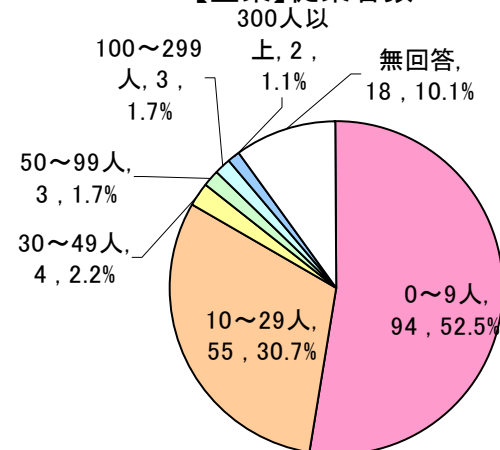


図 II-23

【回答企業の概要】

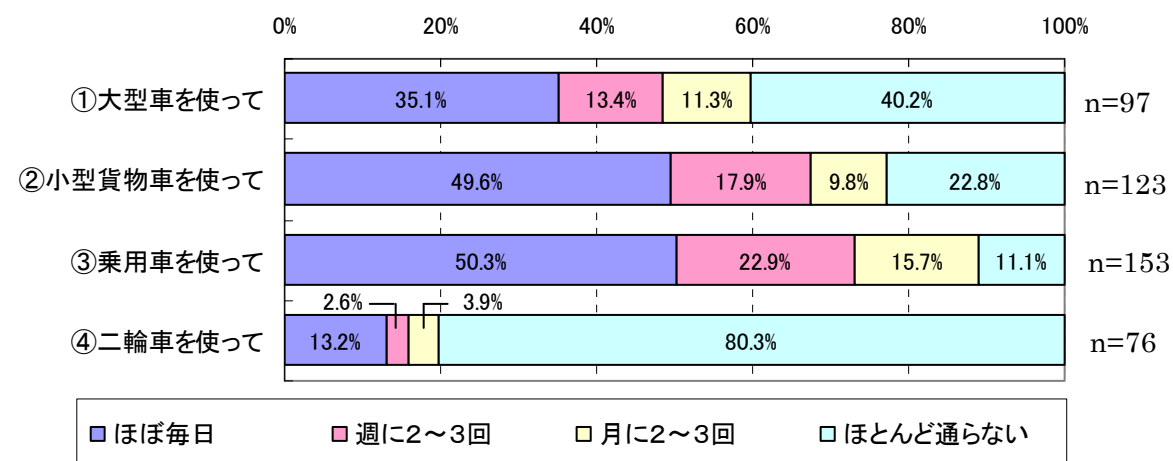
- ・回答のあった各種団体は郵政・農業・商工関係で、漁業・林業・医療関係団体からの回答は得られていない。（図 II-20）
- ・企業からは、8業種の回答が得られており、そのうち「卸売・小売業・飲食店」の回答が31.3%で最も多くなっている。（図 II-21）
- ・職員数（従業員数）は、10人未満の企業の割合が最も多く、それぞれ過半数を占めている。（図 II-22、図 II-23）

（2）調査結果

項目2 熊野川を渡る橋の利用状況についてお聞きします。

貴社の主な業務で、熊野川を渡る場合の主な移動先や利用頻度などについてお答えください。

（1）地域内（新宮市及び紀宝町内）の移動において



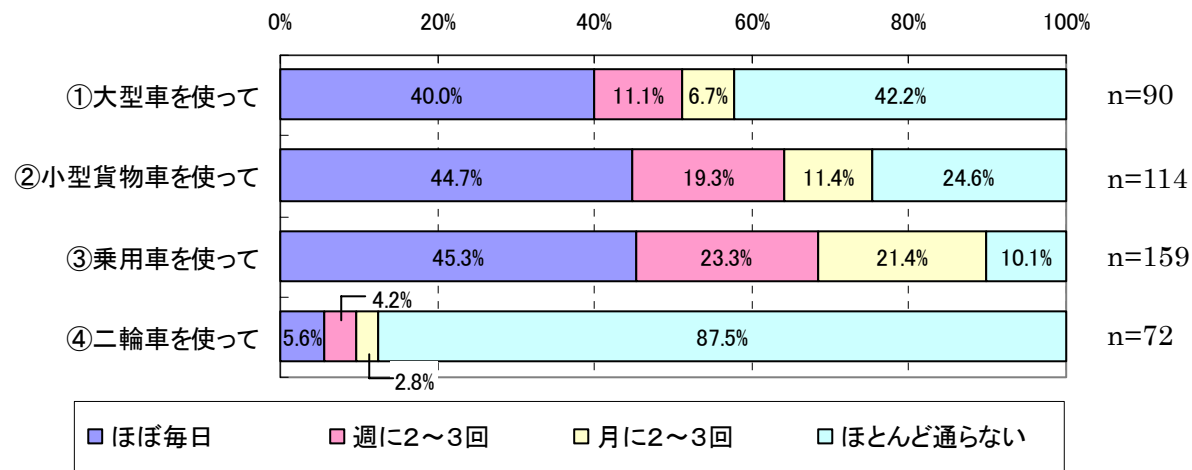
	ほぼ毎日	週に2～3回	月に2～3回	ほとんど通らない
①大型車(普通貨物車、特種(殊)車、バス)を使って	34	13	11	39
②小型貨物車(軽貨物車、小型貨物車)を使って	61	22	12	28
③乗用車(軽乗用車、乗用車)を使って	77	35	24	17
④二輪車を使って	10	2	3	61

図 II-24

【地域内の移動】（図 II-24）

- ・業務における地域内の移動は、乗用車を利用している企業が最も多く、利用頻度としては「ほぼ毎日」が50.3%、「週に2～3回」が22.9%となっている。
- ・続いて小型貨物車、大型車の利用が多くなっている。二輪車の利用は最も少なく、月に2～3回以上利用する企業は2割未満となっている。

(2) 他の地域（新宮市及び紀宝町外）への移動において



	ほぼ毎日	週に2~3回	月に2~3回	ほとんど通らない
①大型車(普通貨物車、特種(殊)車、バス)を使って	36 40.0%	10 11.1%	6 6.7%	38 42.2%
②小型貨物車(軽貨物車、小型貨物車)を使って	51 44.7%	22 19.3%	13 11.4%	28 24.6%
③乗用車(軽乗用車、乗用車)を使って	72 45.3%	37 23.3%	34 21.4%	16 10.1%
④二輪車を使って	4 5.6%	3 4.2%	2 2.8%	63 87.5%

図 II-25

【地域外の移動】(図 II-25)

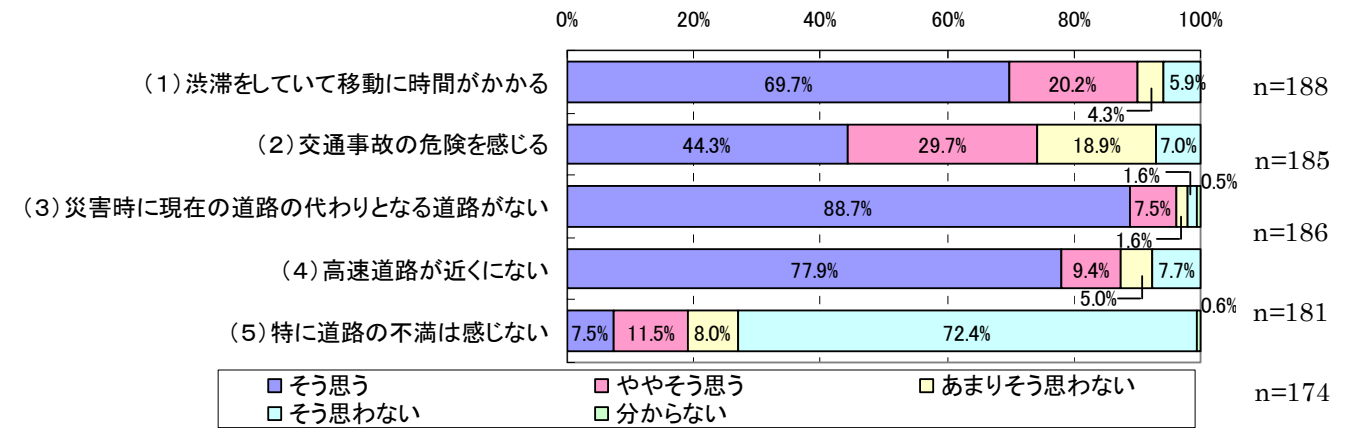
- ・業務における地域外の移動は、地域内と同様乗用車を利用している企業が最も多く、利用頻度としては「ほぼ毎日」が45.3%、「週に2~3回」が23.3%となっている。
- ・地域内の移動と比べ、若干大型車を利用する割合が多く、週2~3回以上の利用は2.6ポイント、そのうち「ほぼ毎日」利用は4.9ポイント増加している。
- ・反対に小型貨物車、乗用車を「ほぼ毎日」利用する割合はやや少なくなっているが、おおむね地域内・地域外の利用形態の傾向は同じであるといえる。

【地域全体の移動について】

- ・地域内の移動、地域外への移動の状況を見ると、移動数、移動頻度ともに同じ傾向を示している。

項目3 熊野川下流地域の道路に関し不満に思うことについてお聞きします。

現在の熊野川下流地域の道路について、どのように思われますか？以下の(1)~(5)それぞれについて、お答えに最も近いものを1つずつ選び○で囲ってください。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない
(1)渋滞をしていて移動に時間がかかる	131 69.7%	38 20.2%	8 4.3%	11 5.9%	0 0.0%
(2)交通事故の危険を感じる	82 44.3%	55 29.7%	35 18.9%	13 7.0%	0 0.0%
(3)災害時に現在の道路の代わりとなる道路がない	165 88.7%	14 7.5%	3 1.6%	3 1.6%	1 0.5%
(4)高速道路が近くにない	141 77.9%	17 9.4%	9 5.0%	14 7.7%	0 0.0%
(5)特に道路の不満は感じない	13 7.5%	20 11.5%	14 8.0%	126 72.4%	1 0.6%

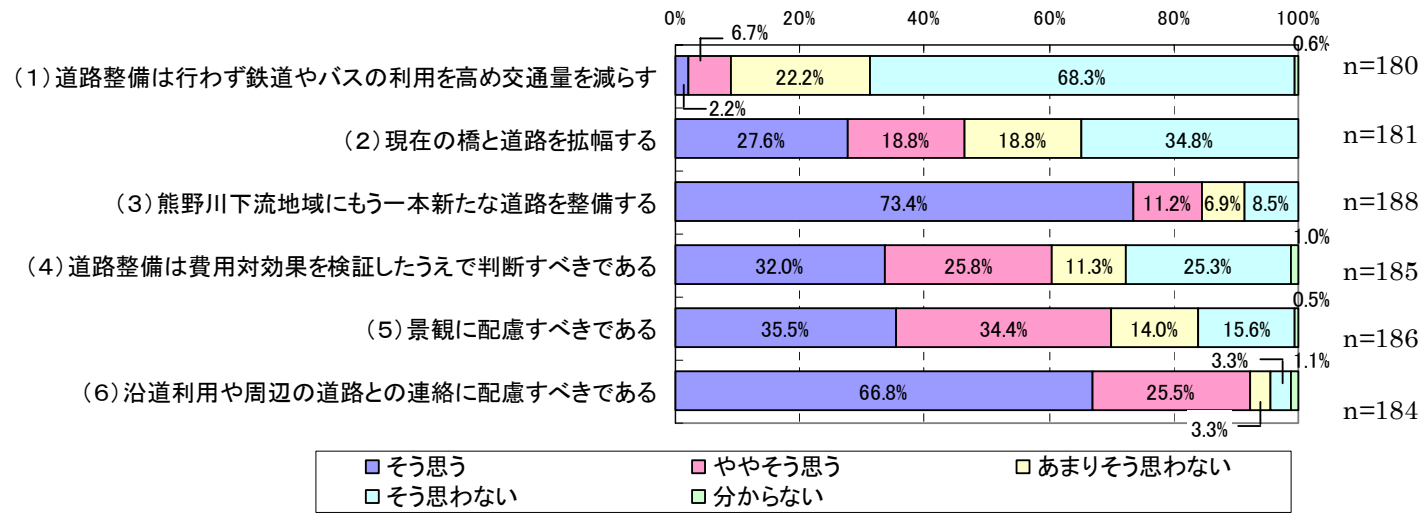
図 II-26

【道路に関する不満】(図 II-26)

- ・地域の道路に関する不満のうち「そう思う」回答が最も多かったのは「災害時の代替道路がない」で、88.7%、続いて「高速道路が近くにない」で77.9%となっている。また、日常の問題としての交通渋滞についての不満は69.7%であり、「ややそう思う」を合わせると「高速道路がない」ことの不満を上回っている。これらの順位は住民回答と同じである。
- ・「特に不満を感じない」に「そう思わない」「あまりそう思わない」人は80.4%であり、住民と比較して道路に不満をもつ人の割合は2.7ポイント多くなっている。

項目 4 熊野川下流地域の道路整備の必要性や配慮すべき事項についてお聞きします。

熊野川下流地域の道路に関し不満に思うことについて、どのような方法で解決すればよいと思いますか。また、道路整備に配慮すべきことはなんですか。以下の(1)～(6)それぞれについて、お答えに最も近いものを1つずつ選び○で囲ってください。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない
(1) 道路整備は行わず、鉄道やバスなどの利用を高め、交通量を減らす	4	12	40	123	1
(2) 現在の橋と道路を拡幅する	50	34	34	63	0
(3) 熊野川下流地域にもう一本新たな道路を整備する	138	21	13	16	0
(4) 道路整備の必要性は、費用対効果を検証したうえで判断すべきである	62	50	22	49	2
(5) 景観に配慮すべきである	66	64	26	29	1
(6) 沿道利用や周辺の道路との連絡に配慮すべきである	123	47	6	6	2

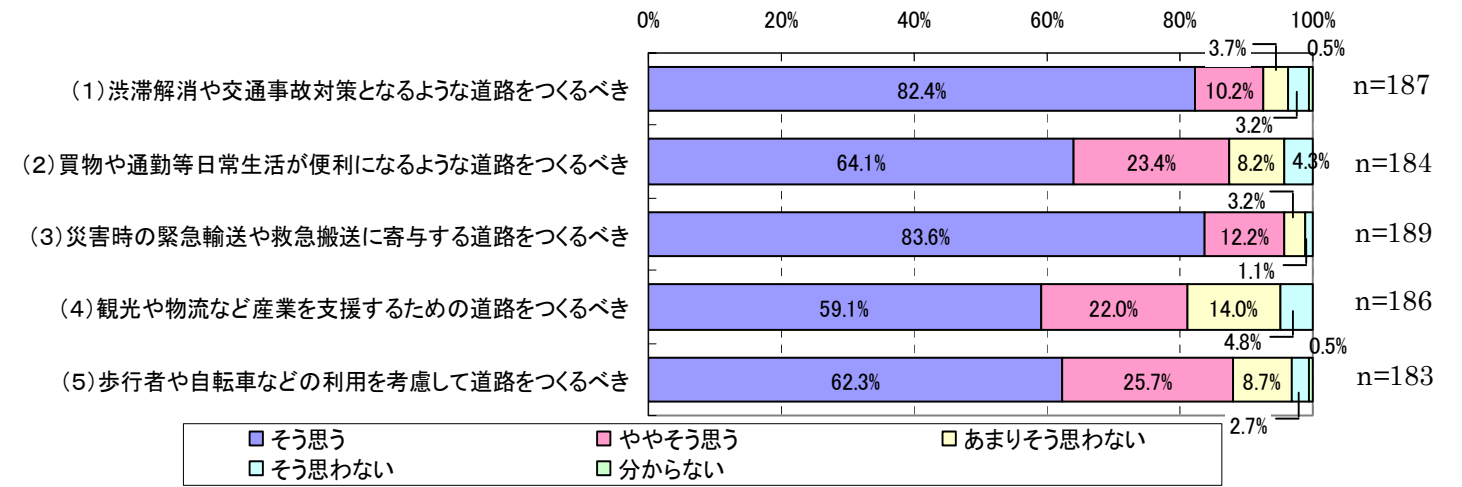
図 II-27

【道路整備の必要性と配慮事項】(図 II-27)

- ・熊野川下流地域への新しい道路整備については、「そう思う」「ややそう思う」を合わせて84.6%の人が必要性を感じている。
- ・「現在の橋と道路の拡幅」の必要を感じている人は46.4%で、住民の31.9%を14.5ポイント上回っている。
- ・道路整備にあたっての配慮事項である費用対効果の検証、景観、周辺道路との連絡についての支持は、住民の回答をそれぞれ1.0、7.9、6.3ポイント上回っている。

項目 5 熊野川下流地域の道路整備に期待することについてお聞きします。

熊野川下流地域の道路整備が必要とする場合についてお聞きします。熊野川下流地域の道路整備にどのような期待をしますか。以下の(1)～(5)のそれぞれについて、お答えに最も近いものを1つずつ選び○で囲ってください。



	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない
(1) 渋滞解消や交通事故対策となるような道路をつくるべき	154	19	7	6	1
(2) 買い物や通勤等、日常生活が便利になるような道路をつくるべき	118	43	15	8	0
(3) 災害時の緊急輸送や救急搬送に寄与する道路をつくるべき	158	23	6	2	0
(4) 観光や物流など産業を支援するための高速で快適に走れる道路をつくるべき	110	41	26	9	0
(5) 歩行者や自転車などの利用を考慮して道路をつくるべき	114	47	16	5	1

図 II-28

【道路整備に期待すること】(図 II-28)

- ・道路整備の効果への期待で、回答が最も多かったのは「災害時の緊急輸送・救急搬送への寄与」で、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると95.8%となっている。
- ・続いて「渋滞解消や交通事故対策」が多く、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると92.6%となっている。その他「買い物や通勤等」「観光や物流」「歩行者や自転車」への寄与についての回答の割合も「そう思う」「ややそう思う」を合わせると80%以上となっている。

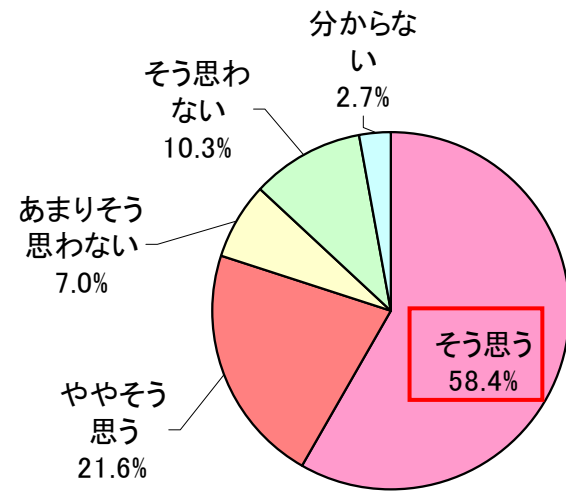
項目6 熊野川下流地域の道路整備位置についてお聞きします。

(1) もし熊野川を渡る新たな道路をつくるとすれば、右図に示すルート範囲が候補の1つとして考えられますが、概ね妥当だと思いますか。お答えに最も近いものを1つ選び○で囲ってください。

(2) 熊野川を渡る新たな道路のルートについて、上記以外にご意見がありましたら、ご自由にお書き下さい。



【ルート候補の位置】



そう思う	99
ややそう思う	37
あまりそう思わない	12
そう思わない	19
分からない	4
合計	171

図 II-29

【道路の整備位置】

- ・新たな道路のルート候補（上図）については、「そう思う」58.4%、「ややそう思う」21.6%、あわせて80.0%の賛同を得られている。
- ・「あまりそう思わない」「そう思わない」人は17.3%で住民より4.6ポイント高くなっている。
- ・その他のルートへの提案としては、「早期実現」「渋滞解消」「災害時の危険性」の視点から、熊野川上流での道路整備への意見が多く見られた。

■ルート候補に関する主な意見（44件）

- ・新たな道路は上流のほうがよい（8件）
 - ・町の空洞化とコストを考慮すると上流のほうがよいのでは（4件）
 - ・市街地を避けたほうが早期に実現する（1件）
 - ・渋滞の解消のためには山側の道が必要（2件）
 - ・ウミガメを守るために海岸近くに作るのは困る（2件）
- ・紀宝町側で鶴殿方面に（海岸線沿い）つながるルートがよい（6件）
 - ・鶴殿（紀宝町）の発展のためにも鶴殿駅前を通すのがよい（3件）
 - ・市街地を通らない海岸線の高速がよい（2件）
- ・その他（30件）
 - ・橋よりもトンネルがよい（災害時が心配）（2件）
 - ・旧大橋の拡幅や左折専用にするなどの対策（3件）
 - ・国道168号の海岸線までの延伸を希望（2件）

3. 熊野川下流地域の道路計画についての主な意見（住民・各団体・企業）

【道路計画に関する自由意見】

- ・その他自由意見として、572件（31.4%）の回答を得られた。

道路ネットワーク・道路整備に関する意見（185件）

- ・新たな道路と併せて既存道路との連絡や地域内道路の整備も必要（95件）
- ・一級河川に橋が一箇所しかない場所は他にないので、ルートは複数あってよい（10件）
- ・新ルートができたなら紀宝バイパスは無駄になるのではないかと（10件）
- ・紀宝バイパス、紀伊半島一週道路の早期整備を望む（8件）
- ・現在の道路網で充分である（整備の必要はない）（60件）

整備時期に関する意見（175件）

- ・新宮市・紀宝町を結ぶ道路が不足しており、早急に道路整備が必要（168件）
- ・早急に河口の大橋、もしくは高速道路の整備を望む（13件）
- ・紀宝バイパスが完成してから検討しても遅くないのでは（6件）

渋滞解消に関する意見（68件）

- ・紀宝バイパス整備と新たな橋が整備されなければ渋滞は解消しない（23件）
- ・道路整備とあわせて、市街地内道路の整備や交差点改良など、渋滞対策も必要である（17件）

地域の活性化に関する意見（51件）

- ・地域活性化に重点をおいた道路整備を希望する（18件）
- ・安心して歩ける歩道・自転車道がほしい（14件）
- ・高規格道路が整備されたら、ますます新宮市内がさびれるのではないかと（10件）
- ・高速道路がないと、テナントを募集しても店が来ない（6件）

災害対策に関する意見（43件）

- ・東南海地震、南海地震対策として災害時緊急輸送や救急搬送に資する道路が必要（12件）
- ・活断層の上に高速道路を整備してよいのか（10件）
- ・災害時を考えると、海側より山側のルートがよいのではないかと（7件）
- ・あわせて既存の2橋も耐震補強してほしい（4件）
- ・やがて来るであろう大震災への対策は検討しているのか（3件）

地域の環境・文化に関する意見（11件）

- ・自然環境やウミガメなど貴重な生物にどのような影響があるか十分配慮すべき（5件）
- ・世界遺産に登録された土地でむやみな道路整備はやめるべき（3件）
- ・熊野古道をはじめ、観光資源に対して分かりやすい整備が必要（2件）